

ひかりのこ

1月園便り

聖ミカエル幼稚園
2018年1月22日

月主題：守られて

皆さん、あけましておめでとうございます。今年も子どもたち、ご家族の皆さん、職員みんなが神様に守られて、豊かな一年を過ごせますよう、お祈りいたします。

さて、今年度も学校評価のご返答ありがとうございました。昨年に引き続き、92.5%という大変高い回収率となりました。今年度の学校評価は、形をリニューアルし、全てにわたり「聖ミカエル幼稚園保育目標」に沿った振り返りの内容といたしました。結果は、4月ごろホームページにてお知らせいたしますが、今回はどの項目においても、A項目が80~100%となり、幼稚園の取り組みをご理解いただいていることが分かり、ほっとしております。特に「絵本の取り組み」のA評価が100%であったことから、今年度、各クラスが「絵本による保育」に力を入れたことが、数字に表れていると感じました。

また、今年度から最後に載せた「お子さんは聖ミカエル幼稚園で生活する中で、どのようなところが成長したと思いますか。」の問いに対しては、学年ごとに特徴のあるお答えが返ってきました。

年少さんでは、「自分の気持ちを表現できるようになりました。」というものや、「自分で進んでお片付けや、お手伝い、自分の身の回りのことができるようになった。」といった、身辺自立や自主性を挙げている方が多かったです。年中さんになると「お友達や先生方との関わり」「年長さんへのあこがれ」「小さい子どもへの優しい気持ちの芽生え」を挙げている方が多くなりました。そして、年長さんになると「優しい気持ち」「相手を思いやる気持ち」「自分を大切に思う心」を挙げている方がとても多かったです。

このことから、「自分自身のこと」がよくなるようになった子どもたちは、次第に、「先生やお友達」に世界を広げていき、年長さんになると、「自分より小さいもの」へ心を向けるようになることが分かります。キリスト教保育、縦割り保育で育ったことも、その成長を助けているようです。そして、「小さいものを大切に作る気持ち」が芽生えることにより、「自分自身を大切に作る心」も育っていくのだ、ということが分かります。

また、保護者の皆さんが、お子さんをよく見て、成長を喜びながら、大切に大切に子育てをされていることも実感いたしました。

最後に、年長さんのお母さんの、とても素敵な言葉を載せたいと思います。「母と離れていても、愛されていることを実感し、年上の子に優しくしてもらうことの嬉しさと、下の子に優しくしてあげるこ

の喜び、様々な行事を通していろいろな経験ができたこと、お友達にされて嫌だったこと、けんかなど、全ての経験が宝物になっていると思います。」

今年も私たち聖ミカエル幼稚園の職員全員が、保護者の皆さんとともに、神様からお預かりした大切な子どもたちを、愛をもって、大きく育てていくことができますように。

園長 渡部 良子

キリスト教保育

「名前をつけるということ」

昨年の聖ミカエル教会のクリスマス礼拝に多くの子どもたち、保護者の方々がご出席くださり感謝申し上げます。当日は天候にも恵まれ、盛大にクリスマスをお祝いすることができました。

ところで礼拝では小学生から60代まで、4名の方々が洗礼を受けられました。聖公会の教会では、洗礼を受けると聖書の登場人物や聖人などから、洗礼名が与えられます。大人の場合は自分で自分の名前を選ぶこともできます。考えてみると、自分で自分の名前をつけるというのは滅多にない貴重な機会です。今回の方々も、自分の良いところ、悪いところを見つめ直し、そういう自分を丸ごと受け入れて守って下さる神さまを信じる決意をして、悩みながら、また楽しみながら自分にふさわしい名前を選んでくださったようです。

私たちは誰でも、すでに名前が与えられています。しかし、私たちは普段、自分の名前をどれくらい大切に思っているでしょうか。様々な名簿や病院の問診票、宅配の送り状の欄に、つい名前を走り書きしている私たちです。だからこそ、たまにはしみじみと自分の名前を口にして、自分に名を与えた人のこと、これまで自分の名を呼んで支えてくれた人々のことを思い出してみたいものです。

名前には、自分の誕生を心から喜び、成長を楽しみにしている親や家族の存在が背景にあります。そして、自分に名前があるということは、愛されて生まれてきたということに他なりません。名前とは、私たちの人生の戻るべき原点なのかもしれません。

チャプレン 司祭 下澤 昌